

昔、戦争（空襲）があったことを。

じょうがんじ 成願寺の住職・小林真人さん(76歳)に
こうじん 防空壕の話をお聞きました

防空壕は昭和19(1944)年につくられました。ご本尊様や過去帳など寺の大切なものだけではなく、近隣の住人たちの避難所としての役割も果たしました。空襲のたびに逃げ込んできた数多くの人々の命を、この防空壕が守ったのです。

近くの小・中学校の生徒が防空壕の見学に訪れます。
そのたびに小林さんは戦争の悲惨さを若い世代に伝え続けています
(写真は中野区立第九中学校のみなさん)



日本橋浜町付近



火災を食い止める消防隊。日本橋付近。



東京大空襲の犠牲者。



座敷の下に作られた防空壕。



東京大空襲後の浅草の様子。

小林さんが体験した東京の空襲とその時代

昭和20(1945)年、私は中学1年生で軍事教練を受けさせられた最後の世代。「日本は戦争に負けない」「死ぬときは爆弾を抱えて敵の戦車の下にもぐりこんで自爆する」と本気で思っていました。列を組んで下校していると兵隊に間違われたのか、アメリカの戦闘機から機銃掃射を受けました。B29の空襲もひんばんで、迎え撃つ日本の高射砲の弾が私のそばに落下して破裂しました。そのとき拾い集めた破片はいまでも私の机の上にあり、当時の恐ろしい記憶がよみがえります。

高射砲弾の破片。



空襲は東京のような大都市だけではなく、日本全国に及んだんだ。みんなのまちにも空襲はあったのかな？次のページで確認してみよう。

